先延ばしにする事と死が必要な理由

人類史で、死から逃れた人は未だに記録されていません。

死とは、誰しもに訪れる現象ですが、多くの人は「自分は不死身だ！」とどこかで思い、「自分は死なないんじゃないか？」と、必ず来る死に対して向き合う事が出来ていません。

誰かの死に対して、「実感出来ない」と語る人が多く居るのもきっとこの理由からでしょう。

そして、死と向き合って生きないと言う事は、物事を先延ばしする悪い癖に繋がってしまいがちなるのではないでしょうか？

無意識的に人生を永遠と捉えれば、「明日やれば良いか」と言う思考回路に陥り易くなるのが、オチ。「永遠の人生なのだから、いつやっても良いじゃないか」と言うように。

しかし、現実は違う。

死は必ず訪れる。

物事を先延ばしにしたツケは必ず、後悔と言う癌になり、心を蝕む。

誰かが「死は美しい」と言った。

死が美しいのは、死があるからこそ、人は努力するからではないでしょうか？

死があるからこそ、物事を先延ばしにはせず、大事な事に時間を使う。そしてドブネズミのように努力するその様は、一種の美しさ。

最後にスティーブ・ジョブズ氏の名言を一つ：

**「今日が僕の人生で最後の一日だったら、僕は今日やろうとしている事は本当にやりたい事なのだろうか？」**

死と向き合い、死の存在を受け入れる事が、物事を先延ばしにする癖を治す一つの方法かもしれません…

そして、賭博黙示録カイジに出てくる、ダラダラと人生を過ごした借金まみれのキャラクター達のように、日々を無駄に塗り潰して、老いて、死ぬ！と言う事が無いように生きたいものですね。